

平成26年1月29日

日本テレビ放送網株式会社
代表取締役社長 大久保好男 様

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
全国児童養護施設協議会
会長 藤野 興



児童養護施設で生活する子どもたちを、これ以上傷つけないでいただきたい
—連続ドラマ「明日、ママがいない」について—

貴社放送の標記ドラマについては、心に深い傷を負って児童養護施設で生活する子どもたちの尊厳を冒し、また児童養護施設に対する誤解や偏見を助長するとして、1月20日付文書にて抗議し、誠意ある対応をとられたく要請したところです。

ところが、第2回放送においても、子どもをペットと同列に扱ったり、恐怖心で子どもを支配する等の表現が多くみられるなど、大変残念なことに問題の改善はみられませんでした。

私たちは、同ドラマが子どもたちに与える悪影響への懸念から、緊急に施設児童等に係る実態アンケートを実施しました。その結果は別紙のとおりですが、重篤な事例も含め、学校で心ない言葉をかけられるなど、子どもたちを苦しめる数々の事例が報告されました。

本ドラマをめぐる、様々な意見や考え方があることは承知しておりますが、ドラマを見た子どもたちが傷つき、また、ドラマを見た友人・知人である子どもたちに傷つけられるなどのドラマによる悪影響を、私たちは絶対に見過ごすことはできません。児童養護施設の子どもたちは、心に深い傷を抱えながら、日々精一杯生きているのです。

貴社におかれては、子どもたちの尊厳をこれ以上冒すことのないよう、私たちの思いを十分にご理解いただき、子どもの人権に配慮した番組内容への具体的改善を早急にはかっていただくよう、あらためて要請します。

なお、1月28日の一部報道では、貴殿ならびに制作局長の説明として、本会の改善要望には応じず、なんら内容を変更することがない旨の発表が行われたと伝えられました。これが事実であるとするれば極めて残念であり、今後誠意ある対応をおとりいただけない場合、私たちは番組の中止要求も含め、更なる対応を検討せざるを得ないと考えております。

本件に対する貴社のお考えについて、2月4日までに文書でご回答くださるようお願いいたします。

平成26年1月29日
全国児童養護施設協議会

ドラマ「明日、ママがいない」の影響に関する実態アンケートにて、 本会に報告された主な事例

- (第1話を見た後)、第2話の放送時間が近づくと、「モヤモヤする。死にたい…」と繰り返す。職員が見る必要がないことを伝えるなど支援したが、本人は気になるようで第2話の放送も見た。放送終了後に自傷行為に及び、病院で治療を受けた。(女子児童)
- クラスメイトの男子生徒が、施設の児童を「おい! ポスト!」と呼びつける。それが何度も続き、児童は言い返せず黙ってしまい、苦しい思いをした。(女子児童)
- 施設の児童が放送翌日、クラスメイトの男子グループから、「お前もどこかにもらわれるんだろ?」などとからかわれる。(女子児童)
- 親戚や友人から、「あんなひどい所に子どもを預けず、早く引き取るべきだ」と言われた。(児童保護者)

[実態報告について]

- 都道府県の本会役員67名に対し、1月17～27日の間に、ドラマがもとになって生じた問題や、ドラマを見た子どもたちの感想について、実態の報告をお願いしました。上記の事例はその一部です。
- 本実態報告は、子どもたちの心理面への負担に配慮し、子どもたちに対する一律の聞き取りや積極的な確認等は行っておりません。
- 子どものプライバシー保護や情緒の安定に配慮するため、上記に示すことのほか、施設名や施設所在地等も含め、詳細は公表いたしません。